



本物にふれた、楽しんだスクールコンサート

10月17日（木）、24日（木）に2週連続のスクールコンサートを開催しました。1回目はクラシック音楽、2回目はポップスと、ジャンルの違う音楽にふれ、楽しみました。

<ふれあい出前コンサート>

天草市役所文化課の主催事業で、ピアノとヴァイオリンの演奏を鑑賞しました。演奏者は次の2人です。

○鳥羽瀬 宗一郎 氏(ピアノ)

天草市五和町出身で、現在、洗足学園音楽大学ピアノコース准教授を務め、後進の指導にもあたっている。

○上里 はな子 氏(ヴァイオリン)

かつて、全日本学生音楽コンクール小学生の部・中学生の部1位を受賞(史上2人目)。現在は、全国各地でのリサイタル他、後進の指導にも力を注いでいる。

当日は、クラシック音楽を中心に、葉加瀬太郎さんの「情熱大陸」のテーマのような馴染みのある曲の演奏もありました。本物の演奏にふれる貴重な機会となりました。

<MICAスクールコンサート>

上天草市出身で、テレビCMへの楽曲提供や県内の各種イベント等でも活躍しているシンガーソングライターのMICAさんを招いての約2時間近くのコンサートでした。

当日は、MICAさんをはじめ、スタッフの方々に各学級で給食を一緒に食べていただき、交流を深めました。



3年生との交流給食



曲に合わせてジャンプ



谷端教諭と師弟コラボ

曲の間のMICAさんのMCでは、歌詞に込められた想いやエピソードが語られ、親への感謝、生きるということ、物事に前向きになることなど、多くのことを感じ取ることができました。

他校の児童生徒と交流を深めました



「寿限無」の発表の様子

10月24日（木）に苓北町の坂瀬川小学校体育館で苓北町、河浦町、五和町、天草町の各小中学校の特別支援学級の交流会が行われました。本校の大空学級の2人も参加し、総合司会の大役を務めました。

また、学校別の発表では、自己紹介・「寿限無」の暗唱・クイズ等を堂々とした態度で発表しました。その後は、ゲーム、ニュースポーツのポッチャやドッチビーなどで楽しみました。半日の交流会でしたが、他校の児童生徒と仲良くなることができました。

祝！九州大会出場決定 ～男子ソフトテニス個人戦～

10月26日（土）に県中学生新人ソフトテニス大会個人戦が開催され、本校からは、吉田琉さん（2年）、平石竜也さん（1年）のペアが出場しました。予選リーグを勝ち上がり、決勝トーナメントへ進出。ベスト16の成績でした。今大会は、12月26日に開催される九州ジュニアソフトテニス大会の予選を兼ねており、見事、出場権を獲得しました。熊本県代表として九州大会での活躍を期待しています。

11月の行事から

5日（火）：天草宝島お魚給食の日

天草市役所水産振興課主催の事業で、出前講座と会食（3年生）を行いました。出前講座では、有明海のたこを中心に水産振興課の山岡さんに約45分の講話をしてもらいました。内容は、マダコの生態、天草市の3海域の特徴、たこ壺漁、水産物の流通等でした。たこ漁はたこ壺漁が有名ですが、漁獲量は1本釣り漁が圧倒的に多いこと、イカ墨とたこ墨の違いなど、大変興味深い話もありました。当日の給食はたこ飯でした。



7日（木）：ビブリオバトル



校内読書旬間の取組として、ビブリオバトルを実施しました。ビブリオバトルとは、本を紹介するコミュニケーションゲームで、参加者の発表の中から一番読んでみたいと思う本を選ぶという、勝敗を競いながら読書に親しむ習慣につなげるゲームです。また、自分の思いや考えを豊かに表現することもねらっています。

<班別勝者>

平山 愛純さん、下釜ゆりのさん、神谷 菜々さん
沢村 蘭さん、生田 結夏さん、黒沢 睦さん
方尾 悠真さん、道田 敬士さん、下釜 一貴さん

クラスのまとめり～郡市音楽会での合唱～

11月14日（木）に天草市民センター大ホールで開催された天草郡市小中学校音楽会に本校から3年生が出場しました。当日は、校内合唱コンクールでも披露した「旅立ちの日」と「手紙」の2曲を歌いました。20人という少人数での合唱でしたが、どの学校にも勝るとも劣らないすばらしい歌声でした。多くの観客のみなさんの前で堂々とした態度も好感が持てました。



「子育て講演会」の内容から

11月13日（水）19：00から本校多目的ルームにおいて、PTA母親委員会主催による子育て講演会が行われました。講師は、天草や菊池管内でスクールカウンセラーとして活躍されている臨床心理士の宮崎保成先生でした。当日は、小学校の保護者も含め、15名の保護者の方々に参加いただきました。講演では、「愛情を持って接する受容・共感と『ダメなものはダメ』と指導する毅然とした態度のバランス」「兄弟姉妹への接し方」「家族間の人間関係」等、具体的事案をもとにした話がありました。子どもへの接し方を改めて考える貴重な機会でした。